

土砂防 だよりの



茶畑と富士山（富士市）

新年度のご挨拶	2
土砂災害防止法への取り組み状況	3
土砂災害防止月間	4
土砂災害防止推進の集い（全国大会）	5
砂防関係予算	6
あなたのまちの土砂災害危険箇所	8
インフォメーション	10
国際交流 行事予定	13
わがまちの砂防 (中伊豆町・本川根町・大須賀町・三ヶ日町)	14
新人紹介 砂防関係の主な行事	16

特集 みんなで防ごう土砂災害

土砂災害防止月間 6月1日～30日

がけ崩れ防災週間 6月1日～7日

平成15年度 当初予算 土砂災害危険箇所の公表

全国治水砂防協会静岡県支部

土砂災害防止法への取り組み状況

静岡県では、土砂災害防止法の円滑な運用を図るため、基盤図（調査、指定のための地形図）を作成するとともに、土砂災害警戒区域等の指定の優先順位や手続き方法等について、学識経験者等からなる「静岡県土砂災害防止法指定検討委員会」を設置し、委員会での意見・助言をもとに方針を作成しています。

土砂災害防止法の施行 H13.4.1

国の基本指針告示 H13.7.9

区域指定のための基礎調査の実施 H13～

（対象箇所 約15,300箇所）

【現在の取り組み状況】

- ①基盤図（調査、指定のための地形図）の作成
- ②土砂災害警戒区域等の指定方法等の検討

- 指定の優先順位の検討 （どのような箇所から優先的に指定するか）
- 指定の公示方法の検討 （どのように指定区域を公示するか）
- 指定の手続き方法の検討
（市町村・住民への説明方法や意見聴取方法等、調査から指定までの手続きの流れをどうするか）
- 基礎調査方法の検討 （基礎マニュアルの作成等）

学識経験者
等の意見

静岡県
土砂災害防止法
指定検討委員会

- ③基礎調査の実施

土砂災害警戒区域の指定

（土砂災害の恐れのある区域）

H15～（概ね20年間）

土砂災害特別警戒区域の指定

H15～（概ね20年間）

（建築物に危害が生じ、住民に著しい危害が生じる恐れのある区域）

静岡県土砂災害防止法指定検討委員会

本県では土砂災害防止法を適正かつ公平に運用していくため、学識経験者、国・市町村職員代表、地域住民代表からなる委員会を設置し、これまでに3回の委員会を開催しました。委員会については、区域指定にあたっての他の課題について平成15年度も引き続き開催することとなりました。

●第1回 委員会（H14.9.20）

土砂災害防止法の概要、県の取り組み状況や土砂災害防止法の運用における課題を説明し、今後、本委員会でのどのような事項を検討していくか討議しました。

●第2回 委員会（H15.1.24）

県内の指定対象箇所について、どのような箇所から優先的に指定すべきか、また指定の公示をどのような方法で行うか検討しました。

●第3回 委員会（H15.3.24）

第2回委員会に引き続いて、指定の優先順位について検討するとともに、指定の手続きにあたって、住民にどのように説明し、意見集約していくか検討しました。



第3回 委員会の様子

特集

みんなで防ごう土砂災害

土砂災害防止月間 6月1日～30日

梅雨時は、雨量も多く地盤がゆるみ、土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害が発生しやすくなります。

土砂災害から尊い人命や財産を守るため、6月を「土砂災害防止月間」と定め、国、県が市町村等関係機関と連携して、土砂災害に関する防災知識の普及と警戒避難体制の整備促進等を図ります。

特に、本年度は、土砂災害防止推進の集い(全国大会)を静岡県で開催します。

●土砂災害防止月間の行事予定

- 6月1～15日 急傾斜地パトロール (県内)
- 4～5日 土砂災害防止推進の集い全国大会
砂防ボランティア協会全国の集い
(静岡市・グランシップ)
- 22日 砂防フェスティバル (静岡市青葉緑地)
- 1～30日 平成14年度土砂災害防止に関する
絵画・ポスター・作文の応募作品展示
(県庁・土木事務所・市町村庁舎)

急傾斜地パトロール



地域住民や砂防ボランティアの参加による協働をテーマに、急傾斜地崩壊危険区域の点検パトロールを実施します。

砂防フェスティバル



静岡市青葉緑地で、砂防フェスティバルを開催します。会場では、砂防事業の紹介、絵画・ポスター・作文の入賞作品の展示・表彰と、ラジオの生中継が行われます。皆さんの御来場をお待ちしております。

土砂災害の前ぶれ現象

土石流



函南町畑 (平成10年8月発生)



山鳴りがする



急に川の水が濁り流木が混ざる



雨が降り続けているのに川の水位が下がる

地すべり



菊川町半済 (平成10年9月発生)



地面にひび割れができる



斜面から水がふき出す



沢の水や井戸水が濁る

がけ崩れ



浜岡町山ヶ谷 (平成12年6月発生)



がけに亀裂ができる



がけから水がわき出している



がけから小石がバラバラと落ちる



平成15年度

土砂災害防止推進の集い(全国大会)が静岡県で開催

昭和57年長崎の集中豪雨災害をきっかけに、行政と住民が一体となって土砂災害防止に努める必要をアピールすることを目的として、毎年6月を土砂災害防止月間と位置付け、翌年の昭和58年に長崎で第1回大会が開催され、今年の静岡県大会で21回目をむかえます。

毎年発生する土砂災害による人命、財産の被害の状況をかんがみ土砂災害防止に対する国民の理解と関心を深めるとともに土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制の推進等の運動を強力に推進し、土砂災害による人命、財産の被害の防止に資することを目的として、「土砂災害防止推進の集い(全国大会)」を開催します。

● 開催テーマ

「くらしのなかの土砂災害防止」
～地域、歴史、文化につちかわれた自主防災活動～



● 開催日時 会場

土砂災害防止推進の集い(全国大会)

日 時：平成15年6月4日(水)
13：30～17：00

会 場：グランシップ 中ホール「大地」(静岡市)

プログラム：式典、土砂災害防止功労者表彰
講演(講師：小和田哲男静岡大学教授)
「戦国武将の治山治水と静岡の自然災害」
シンポジウム
「くらしのなかの土砂災害防止」

現地研修会

日 時：平成15年6月5日(木) 8：30～

コ ー ス：Aコース 大谷崩れ
：Bコース 富士山麓
：Cコース 木和田川砂防えん堤群
：Dコース 静岡市
都市山麓グリーンベルト

● 対象者

一般住民、防災担当者、砂防ボランティア、砂防工事従事者等 計約1,200名

● 主 催

国土交通省、静岡県

● 連携行事

土砂災害防止推進の集い(全国大会)に併せて、下記の行事が実施されます。

①「砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会」
並びに「砂防関係工事現場代理人の会」総会

日 時/6月3日 午後
会 場/静岡市梅ヶ島小中学校体育館

②「砂防ボランティア全国のつどい」

日 時/6月4日 午前
会 場/グランシップ会議ホール「風」



詳しくは…静岡県土木部ホームページをご覧ください。http://www.pref.shizuoka.jp/doboku/doboku1.html

当初予算可決

砂防関係予算 **101億4,945万円余**

平成15年度当初予算が平成15年2月定例議会において可決され、静岡県一般会計の歳出総額は1兆1,770億円で、前年度に比べ約150億円の減となりました。

砂防関係予算の総額は101億4,945万円余で前年度より約10億円の減となりました。(前年度当初比90.7%)
 主な内訳は次のとおりです。

1 国庫補助事業 71億9,600万円 (前年度当初比89.1%)

国の補助を得て、溪流、急傾斜地等に砂防施設等の整備を行うとともに、「土砂災害防止法」施行に伴う基礎調査等を実施します。

2 県単独事業 17億200万円 (前年度当初比95.1%)

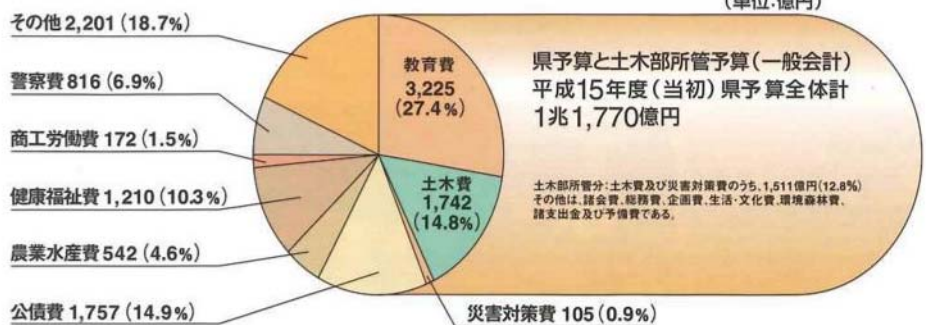
国庫補助事業に採択されない箇所について、砂防、地すべり、急傾斜地崩壊防止工事を行うとともに、東海地震に備えて緊急輸送路関連土砂災害対策事業等を実施します。

3 国直轄事業費負担金 12億3,400万円 (前年度当初比96.9%)

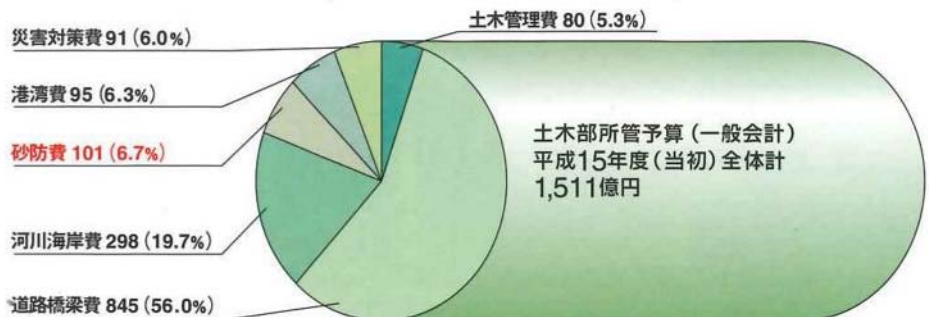
富士山、安倍川、狩野川において、国土交通省が行う直轄砂防事業に対する県負担金です。

静岡県の砂防関係予算

■ 県予算と土木部予算 (平成15年度当初)



■ 土木部所管予算 (平成15年度当初)

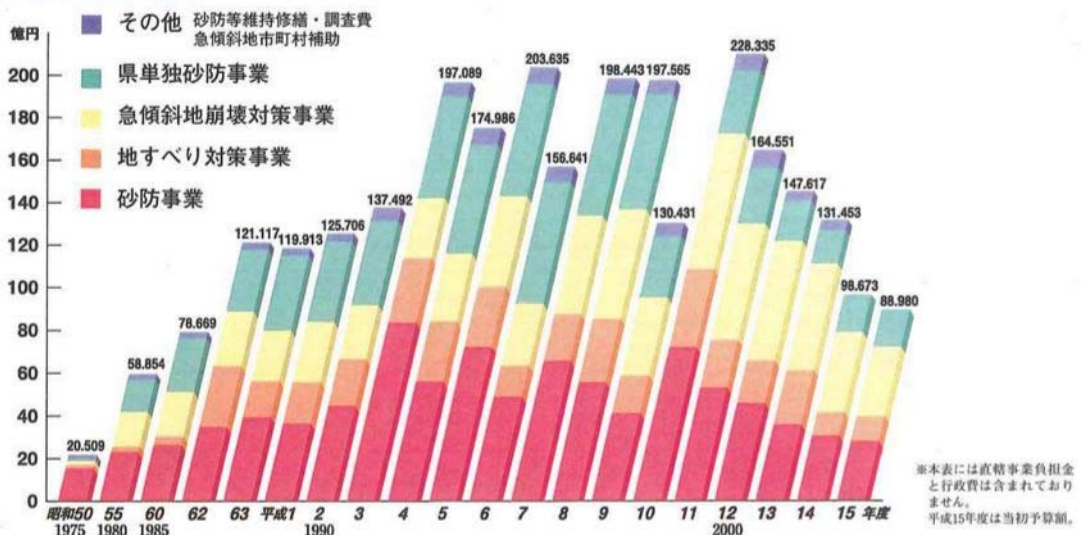


平成15年度砂防関係当初予算

(単位:千円、%)

事業者名	平成15年度		平成14年度		A/B	A/C
	当初 A	最終 C	当初 B	最終 C		
砂防管理費						
砂防管理費	3,457	3,485	3,485	3,485	99.2	99.2
砂防施設等環境保全事業費	14,000	40,000	40,000	40,000	35.0	35.0
グリーンベルト環境保全事業費	(4,760)	(9,450)	(9,450)	(10,022)	(50.4)	(47.5)
砂防環境環境調査事業費	(-)	(20,330)	(20,330)	(19,950)	(皆減)	(皆減)
急傾斜地リフレッシュ事業費	(9,240)	(10,220)	(10,220)	(10,028)	(90.4)	(92.1)
計	17,457	43,485	43,485	43,485	40.1	40.1
国庫補助						
砂防						
通常砂防(河川等関連)	1,128,000	1,115,000	1,115,000	1,564,000	101.2	72.1
通常砂防(河川等関連)	34,000	35,000	35,000	52,000	97.1	66.4
情報基盤緊急整備(砂防)	20,000	28,000	28,000	27,000	71.4	74.1
相互通報システム(砂防)	176,000	154,000	154,000	158,000	114.3	111.4
小々計	1,358,000	1,332,000	1,332,000	1,801,000	102.0	75.4
火山砂防(河川等関連)	900,000	900,000	900,000	900,000	100.0	100.0
火山砂防(河川等関連)	0	0	0	0	-	-
小々計	900,000	900,000	900,000	900,000	100.0	100.0
砂防基礎調査(砂防)	120,000	168,000	168,000	147,000	71.4	81.6
小々計	2,378,000	2,400,000	2,400,000	2,848,000	99.1	83.5
地すべり						
地すべり対策	361,000	373,000	373,000	474,000	96.8	76.2
地すべり対策(河川等関連)	106,000	110,000	110,000	180,000	96.4	58.9
特定緊急地すべり対策	25,000	0	0	0	皆増	皆増
情報基盤緊急整備(地すべり)	10,000	30,000	30,000	37,000	33.3	27.0
相互通報システム(地すべり)	16,000	0	0	0	皆増	皆増
小々計	518,000	513,000	513,000	691,000	101.0	75.0
砂防基礎調査(地すべり)	15,000	18,000	18,000	18,000	83.3	83.3
小々計	533,000	531,000	531,000	709,000	100.4	75.2
急傾斜						
急傾斜地崩壊対策	3,191,000	3,169,000	3,169,000	3,743,200	100.7	85.2
急傾斜地崩壊対策(河川等関連)	102,000	106,000	106,000	106,000	96.2	96.2
情報基盤緊急整備(急傾斜)	20,000	36,000	36,000	35,000	55.6	57.1
相互通報システム(急傾斜)	24,000	24,000	24,000	23,000	100.0	104.3
小々計	3,337,000	3,335,000	3,335,000	3,907,200	100.1	85.4
急傾斜地基礎調査	18,000	84,000	84,000	24,000	21.4	75.0
小々計	3,355,000	3,419,000	3,419,000	3,931,200	98.1	85.3
砂防関係通常国庫補助事業計	6,266,000	6,350,000	6,350,000	7,488,200	98.7	83.7
東富士演習場周辺地区障害防止対策事業	130,000	290,000	290,000	131,116	44.8	99.1
災害関連緊急砂防	39,000	72,000	72,000	132,000	54.2	29.5
災害関連緊急地すべり対策	708,000	1,272,000	1,272,000	219,000	55.7	323.3
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策	53,000	96,000	96,000	58,000	55.2	91.4
小々計	800,000	1,440,000	1,440,000	409,000	55.6	195.6
国庫補助事業計	7,196,000	8,080,000	8,080,000	8,028,316	89.1	89.6
県単独						
砂防						
通常砂防	380,500	425,700	425,700	435,700	89.4	87.3
地すべり対策	31,000	34,000	34,000	49,000	91.2	63.3
急傾斜地崩壊対策	428,000	478,000	478,000	503,000	89.5	85.1
災害緊急整備(地すべり)	50,000	50,000	50,000	50,000	100.0	100.0
緊急輸送路関連土砂災害対策	60,000	60,000	60,000	60,000	100.0	100.0
地すべり対策	(15,000)	(20,000)	(20,000)	(20,000)	(75.0)	(75.0)
急傾斜地崩壊対策	(45,000)	(40,000)	(40,000)	(40,000)	(112.5)	(112.5)
砂防等維持修繕	163,000	141,000	141,000	141,000	115.6	115.6
砂防等調査	190,500	178,000	178,000	178,000	107.0	107.0
砂防等台帳整備	13,000	13,300	13,300	13,300	97.7	97.7
小々計	1,316,000	1,380,000	1,380,000	1,430,000	95.4	92.0
急傾斜補助						
施設整備	72,000	76,200	76,200	76,200	94.5	94.5
指定促進対策	32,000	33,800	33,800	33,800	94.7	94.7
小々計	104,000	110,000	110,000	110,000	94.5	94.5
生活環境整備事業計	1,420,000	1,490,000	1,490,000	1,540,000	95.3	92.2
砂防	123,000	131,000	131,000	131,000	93.9	93.9
地すべり対策	20,000	20,000	20,000	20,000	100.0	100.0
急傾斜地崩壊対策	139,000	148,000	148,000	148,000	93.9	93.9
小々計	282,000	299,000	299,000	299,000	94.3	94.3
県単独事業計	1,702,000	1,789,000	1,789,000	1,839,900	95.1	92.6
砂防費	8,898,000	9,869,000	9,869,000	9,867,316	90.2	90.2
国直轄事業費負担金	1,234,000	1,273,000	1,273,000	2,204,768	96.9	56.0
合計	10,149,457	11,185,485	11,185,485	12,115,569	90.7	83.8

砂防関係事業費の推移





あなたのまちの 土砂災害危険箇所

【概要】

平成15年3月28日(今回)、国土交通省より各都道府県において実施された土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険箇所調査の全国集計が発表されました。今回の調査では、人家5戸以上に被害を及ぼす恐れのある危険箇所に加え、人家5戸未満に被害を及ぼす恐れのある危険箇所も調査対象としました。

既に調査されている地すべり危険箇所(国土交通省所管分)を含めると、県内の土砂災害危険箇所は15,193箇所になります。

【土砂災害危険箇所について】

●前回の調査(人家5戸以上等に被害が及ぶ恐れのある箇所)との比較

土石流危険渓流/前回(平成5年公表)より379渓流増加
急傾斜地崩壊危険箇所/前回(平成9年公表)より703箇所増加

【増加理由】

- 航空写真の活用等により調査精度が向上したこと
- 山麓部や扇状地等に住宅等が新規に立地したこと
- 危険箇所や被害想定区域の地形の傾斜度等を見直したこと

●土砂災害危険箇所等の内訳

区分	土石流危険渓流等			急傾斜地崩壊危険箇所等		
	静岡県		全国	静岡県		全国
	前回	今回		前回	今回	
人家5戸以上等の箇所	1,932渓流	2,311渓流	89,518渓流	3,046箇所	3,749箇所	113,557箇所
人家1~4戸の箇所	—	1,806渓流	73,390渓流	—	5,879箇所	176,182箇所
今後住宅の立地が見込まれる箇所(人家0戸)	—	130渓流	20,955渓流	—	1,135箇所	40,417箇所
合計		4,247渓流	183,863渓流		10,763箇所	330,156箇所

(参考) 土石流危険渓流/土石流の発生する危険性があり人家に被害を及ぼす恐れのある渓流
土石流危険渓流等/上記渓流に人家はないものの今後住宅の立地等が見込まれるものを含めた渓流
急傾斜地崩壊危険箇所/傾斜度30度以上、高さ5m以上の急傾斜地で人家に被害を及ぼす恐れのある箇所
急傾斜地崩壊危険箇所等/上記箇所に人家はないものの今後住宅の立地等が見込まれるものを含めた箇所

■市町村別土砂災害危険箇所

土木事務所名	市町村名	土石流危険渓流等(※1)					急傾斜地崩壊危険箇所等(※1)					地すべり危険箇所(※2)	危険箇所合計
		前回	今回				前回	今回					
			I	II	III	計		I	II	III	計		
下田土木	下田市	76	94	138	3	235	132	171	131	9	311	0	546
	東伊豆町	17	16	4	3	23	38	41	9	6	56	6	85
	河津町	46	53	38	1	92	40	47	52	13	112	5	209
	南伊豆町	55	119	114	19	252	137	132	97	16	245	1	498
	松崎町	40	71	21	0	92	69	79	49	0	128	1	221
	西伊豆町	36	42	16	0	58	39	51	28	7	86	1	145
	賀茂村	13	22	6	0	28	20	24	6	0	30	0	58
	小計	283	417	337	26	780	475	545	372	51	968	14	1,762
熱海土木	熱海市	41	91	7	0	98	100	111	45	11	167	1	266
	伊東市	34	82	14	9	105	58	117	52	47	216	2	323
	小計	75	173	21	9	203	158	227	97	58	383	3	589
沼津土木	沼津市	60	70	11	4	85	100	109	27	6	142	0	227
	三島市	9	15	7	1	23	42	56	24	2	82	0	105
	御殿場市	15	8	15	7	30	2	3	3	1	7	0	37
	裾野市	20	23	16	5	44	26	27	8	3	38	0	82
	伊豆長岡町	16	19	8	3	30	29	34	27	13	74	1	105
	修善寺町	73	114	29	11	154	41	60	42	22	124	3	281
	戸田村	23	26	5	0	21	17	20	7	0	27	0	58
土肥町	21	36	2	1	39	31	33	16	0	49	1	89	

土木事務所名	市町村名	土石流危険渓流等(※1)					急傾斜地崩壊危険箇所等(※1)					地すべり危険箇所(※2)	危険箇所合計
		前回	今回				前回	今回					
			I	II	III	計		I	II	III	計		
沼津土木	函南町	13	14	14	4	32	13	33	35	6	74	1	107
	葦山町	13	22	1	0	23	21	28	16	4	48	0	71
	大仁町	13	33	15	2	50	17	25	22	29	76	0	126
	天城湯ヶ島町	89	99	61	0	160	10	30	60	14	104	2	266
	中伊豆町	69	79	48	0	127	7	28	52	14	94	2	223
	清水町	2	2	0	0	2	6	11	4	1	16	0	18
	長泉町	1	1	1	0	2	17	19	8	2	29	0	31
	小山町	30	35	10	2	47	32	38	21	2	61	0	108
	小計	467	596	243	40	879	411	554	372	119	1,045	10	1,934
富士土木	富士宮市	10	34	6	0	40	35	36	69	6	111	0	151
	富士市	17	20	3	1	24	28	36	67	5	108	0	132
	芝川町	31	32	29	6	67	46	51	75	38	164	1	232
	小計	58	86	38	7	131	109	123	211	49	383	1	515
静岡土木	静岡市	477	509	353	17	879	597	714	815	159	1,688	5	2,572
	富士川町	19	28	5	0	33	20	23	31	6	60	1	94
	蒲原町	11	14	0	0	14	12	13	1	1	15	0	29
	由比町	17	17	9	0	26	21	23	22	35	80	6	112
	小計	524	568	367	17	952	650	773	869	201	1,843	12	2,807
島田土木	島田市	54	52	74	3	129	84	92	190	58	340	9	478
	焼津市	20	13	10	1	24	24	28	17	3	48	1	73
	藤枝市	40	36	75	8	119	96	121	168	29	318	26	463
	岡部町	48	33	51	2	86	41	44	80	4	128	1	215
	大井川町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金谷町	19	13	21	0	34	25	29	14	6	49	4	87
	川根町	21	18	17	0	35	21	27	77	0	104	13	152
	中川根町	15	15	17	0	32	14	18	65	0	83	0	115
	本川根町	4	8	2	0	10	12	16	44	0	60	0	70
小計	221	188	267	14	469	317	375	655	100	1,130	54	1,653	
御前崎土木	御前崎町	0	0	0	0	0	9	10	4	8	22	0	22
	相良町	10	4	12	2	18	20	24	148	54	226	2	246
	榛原町	7	9	17	0	26	30	33	55	6	94	0	120
	吉田町	0	0	0	0	0	4	3	3	0	6	0	6
	小計	17	13	29	2	44	63	70	210	68	348	2	394
袋井土木	磐田市	2	2	1	3	6	19	20	32	15	67	0	73
	掛川市	23	29	64	1	94	30	54	544	67	665	11	770
	袋井市	7	7	24	1	32	32	41	157	15	213	0	245
	大須賀町	9	7	13	1	21	10	12	25	3	40	0	61
	浜岡町	2	1	11	0	12	24	27	221	54	302	0	314
	小笠町	5	4	10	0	14	34	39	97	5	141	0	155
	菊川町	3	5	25	0	30	45	54	202	26	282	0	312
	大東町	0	3	16	0	19	36	39	130	7	176	0	195
	森町	22	23	35	1	59	20	28	292	44	364	5	428
	浅羽町	0	0	0	0	0	0	2	2	3	7	0	7
	福田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	竜洋町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豊田町	0	0	0	0	0	6	6	9	8	23	0	23
	豊岡村	9	18	41	1	60	8	13	91	17	121	0	181
小計	82	99	240	8	347	264	335	1,802	264	2,401	16	2,764	
天竜土木	天竜市	53	45	74	0	119	123	135	218	23	376	7	502
	春野町	33	28	34	0	62	47	52	138	0	190	13	265
	龍山村	4	5	3	0	8	28	28	31	0	59	6	73
	佐久間町	30	28	36	0	64	83	88	88	0	176	16	256
	水窪町	24	22	17	0	39	36	41	56	0	97	24	160
	小計	144	128	164	0	292	317	344	531	23	898	66	1,256
浜松土木	浜松市	11	3	5	0	8	175	214	200	70	484	0	492
	浜北市	0	0	2	0	2	2	15	42	35	92	1	95
	湖西市	1	0	2	0	2	24	40	87	24	151	0	153
	新居町	1	0	0	0	0	13	16	9	5	30	0	30
	雄踏町	0	0	0	0	0	1	3	12	9	24	0	24
	舞阪町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細江町	10	8	8	0	16	33	44	39	36	119	0	135
	引佐町	29	24	73	5	102	22	54	348	18	420	4	526
	三ヶ日町	9	8	10	2	20	12	16	23	5	44	0	64
小計	61	43	100	7	150	282	402	760	202	1,364	5	1,519	
合 計		1,932	2,311	1,806	130	4,247	3,046	3,749	5,879	1,135	10,763	183	15,193

※1 土石流危険渓流および急傾斜地崩壊危険箇所のうち
Iは「人家5戸以上の危険箇所」
IIは「人家1戸～4戸の危険箇所」
IIIは「人家はないが今後住宅の立地が見込まれる箇所(人家0戸)」
※2 地すべり危険箇所は国土交通省所管危険箇所

静岡県初

八木元砂防課長が「赤木顕功賞」を受賞

第43回 砂防および地すべり防止講習会



い、地震対策緊急整備事業計画策定のため、めざましい活躍をされ、全国に先駆けて地震対策砂防事業が着手されることとなりました。

さらに、急傾斜地の指定を積極的に推進するため、市町村への財政援助制度である「静岡県急傾斜地崩壊対策補助金交付要領」を改正し、指定促進制度の創設に御尽力され、平成2年3月に退職されるまで静岡県の砂防行政の推進に多大なる功績をあげられました。

平成15年3月13日～14日、第43回砂防および地すべり防止講習会が砂防会館において開催され、八木忠男元砂防課長が平成14年度赤木顕功賞を受賞されました。(赤木顕功賞:砂防行政の発展及び砂防技術の向上に多大の功績があった方に贈られる賞。平成14年度全国で3名受賞、静岡県では初)

八木氏は、昭和49年7月県中部地方で死者44名の被害をもたらした七夕梅雨前線豪雨および台風8号のがけ崩れ等の災害に際して「急傾斜地対策プロジェクトチーム」を発足させ、計画の早期完成に寄与されるとともに、静岡県の急傾斜地対策の全国水準への向上に御尽力されました。

また、静岡県全域が地震防災対策強化地域に指定されたのに伴



八木忠男元砂防課長



表彰式の様子(右から2人目が八木氏)

全国支部事務局員会議が本部協会で開催される

平成15年3月12日、砂防会館において全国支部事務局員会議が開催され、全国から44名の都道府県の担当職員が集まりました。

会議は、大久保理事長の挨拶に始まり、宮内理事より市町村合併に伴う会員の異動についての諸手続き、また小林理事より今後の活動についての説明がありました。議事につづいて、岡本国土交通省砂防部長より「人と情報と組織づくり」についての講話があり、参加者は熱心に聴講しました。

会議終了後には、各都道府県の砂防協会の活動状況等について事務局員同士の活発な意見交換が行われ、有意義な場となりました。

砂防治山連絡会議の開催

平成14年12月19日、砂防治山連絡会議が静岡市内で開催されました。

この会議は、県内の砂防事業と治山事業の円滑な実施のため、災害対策等における連携の強化、事業の効果的・効率的実施、技術交流の促進を図るもので、毎年実施されています。

会議には、国からは中部地方整備局より県内直轄3工事事務所の所長及び担当者、関東森林管理局東京分局より治山課長及び担当者が、静岡県からは片岡森林総室長、山崎砂防統括監をはじめ、環境森林部森林保全室、土木部砂防室の担当者が参加して、平成15年度以降の各事業間の調整を行いました。



連絡会議

東海4県直轄事務所長・砂防課長会議の開催



森山砂防計画調整官の挨拶

平成15年1月30～31日、東海地区直轄事務所長・砂防課長会議が静岡市内で開催されました。

会議には、国土交通省砂防部より森山砂防計画調整官、中部地方整備局より吉柳建設専門官をはじめ直轄6工事事務所長、長野・岐阜・三重・愛知各県の砂防課長が、静岡県からは山崎砂防統括監が出席しました。

会議では、砂防関係事業に関する近況報告及び各県における課題について熱心な意見交換を行いました。中でも、砂防事業の由来を調べ、過去の出来事を反省し、今後に活かす、いわゆる「昔の見直し」を国においては今後行っていくなど興味深い話もありました。

翌日は、砂防堰堤のある木和田川砂防学習ゾーンと、静岡空港建設事業地の視察を行いました。なお、このコースは平成15年6月に実施される「土砂災害防止推進の集い（全国大会）」の現地視察のコースのひとつにもなっております。木和田川の8基の砂防堰堤には、文化庁より送付された登録有形文化財の標識もこのほど設置されました。

静岡県砂防ボランティア協会総会の開催

平成15年1月23日に、平成14年度静岡県砂防ボランティア協会の総会が静岡市内で開催されました。総会では、平成14年度の活動状況報告、平成15年度の活動計画、協会のNPO法人化を検討するための説明などがありました。

また、「平成15年度砂防ボランティア全国の集い」が静岡県で開催される予定である旨を説明し、県砂防ボランティア協会として協力することを確認しました。



県砂防ボランティア協会の皆さん

土砂災害防止法講演会・県政さわやかミーティングの開催

平成15年3月14日、静岡音楽館「AOI」講堂で「土砂災害防止法講演会」および「県政さわやかタウンミーティング」が開催されました。

講演では、国土交通省河川局砂防部砂防管理室白石専門調査官を講師として招き、土砂災害防止法の概要、土砂災害警戒区域等に指定された場合のソフト対策の進め方及び全国の運用状況等について映像でわかりやすく説明して頂きました。併せて、砂防室職員により、本県の土砂災害防止法の運用状況に関する報告を行い、県・市町村職員を中心とする参加者は熱心に受講されました。

また、続いて行われた「県政さわやかタウンミーティング」では、県土木部建設政策総室長及び河川砂防総室長により「河川行政の現状と今後のあり方」について意見交換が行われました。県からは多自然型の川づくりや住民との協働など、河川行政に関する話題提供を行うとともに、市町村担当者からは、市町村合併と河川行政との関連や補助制度のあり方等について質問が寄せられました。



白石専門調査官による講義

口坂本地すべり対策委員会の開催



委員会の様子

平成14年12月25日、静岡市内で東京農工大学中村教授、静岡大学土屋教授、独立行政法人土木研究所小山内上席研究員の学識者を迎え、口坂本地区（静岡市）の地すべり対策工の効果を検討する委員会が開催されました。

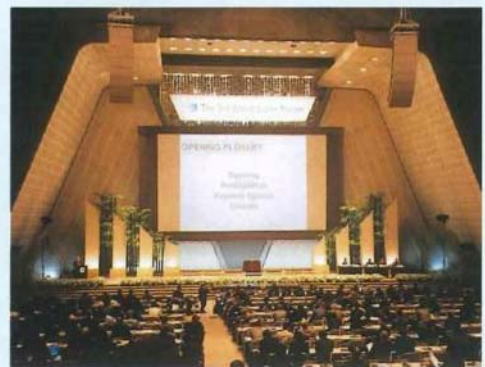
同委員会では、現地に設置している各種観測機器データのチェックを行い、これまでに解明されている地すべり機構に基づき、当地区で施工された対策工の効果判定及び今後の対策工の進め方について、学識者の助言により、様々な角度から検討を行いました。今後も必要に応じて検討会等を設け、地域の安全を図るとともに、地すべりの調査・対策工等の発展に寄与していきたいと考えています。

第3回 世界水フォーラム開催される

3月16～23日の8日間にわたり、「第3回世界水フォーラム」が、「フォーラム」、「閣僚級国際会議」、「水に関するフェア」の構成により開催されました。

フォーラムでは世界の水に関わる政策決定者、学識専門家、技術者、企業、NGO等様々な立場の人々が一堂に会し、将来の水問題の解決についての議論を行いました。

閣僚級国際会議では各国政府の水に関係する大臣や、水に関わる国連機関などの政策決定段階で重要な位置づけにある人々を集め、フォーラムでの議論を踏まえた宣言文の取りまとめなどにより、政治的行動の位置付けを図りました。



京都会場（開会式）

水に関するフェアは、京都、大阪、滋賀の3会場で水に関わる展示会、展覧会、音楽会等の多種多様な取り組みを通して、水を理解し、水を感じることで、広く一般の人々を含めた多くの人々の水への関心を高めるとともに、ネットワークづくりの場所として提供されました。

静岡県土木部では、大阪会場（インテック大阪）で「水のEXPO」に出展し、日本の象徴「富士山」など静岡県の美しい自然と、先人が生み出した伝統治水工法や水文化を映像で紹介しました。



水のEXPO（静岡県の展示）



- 平成15年 2月 3日 全国河川砂防主管課長会議（国土交通省）
- 2月 5日 グリーンベルトワーキング（岐阜県）
- 13日 土砂災害情報相互通報整備事業市町村説明会（静岡県庁）
- 19日 東海地区砂防課長補佐会議（名古屋市）
- 3月 6日 「平成15年度土砂災害防止推進の集い（全国大会）」運営委員会（静岡市）
- 7日 「土砂災害防止月間」実行委員会（東京都）



JICA研修生(インドネシア共和国)が本県を視察

平成15年2月17～18日、インドネシア国砂防研究センター Sutikno H.氏他1名が、県内の防災情報システムの視察に訪れました。

この視察は、国際協力事業団(JICA)により実施されている海外技術協力の一環として、1月20日から2月27日まで砂防に関する「防災情報技術」研修で、国内各地の防災情報システム等を視察するもので、本県では県土砂災害雨量情報提供システム、県防災システム、県地震防災センターなどを視察しました。特に、土砂災害雨量情報提供システムに関心が高く、砂防室職員と熱心な意見交換をされました。



JICA研修生の皆さん(土木防災情報センターにて)



日・台砂防技術交流調査団が本県を視察

平成15年3月26～27日、台湾大學陳信雄教授を団長とする計19名が県内の砂防視察の視察に訪れました。

この視察は、(社)全国治水砂防協会の主催により、3月22日から30日までの9日間で神奈川県、栃木県、静岡県内の砂防施設を視察するもので、本県では童子沢親水公園、木和田川砂防学習ゾーン、県地震防災センターを視察しました。特に、童子沢や木和田川の自然工法に関心が高く、砂防室、土木事務所、金谷町職員と熱心な意見交換をされました。



視察団の皆さん(木和田川砂防学習ゾーンにて)



熱心に説明を聞く視察団(童子沢親水公園にて)

◆◆◆ 平成15年度の行事予定 ◆◆◆

日程	全国治水砂防協会・静岡県支部	日程	砂防関係研修予定
4月 24日	静岡県支部会計監査	5月14～16日	砂防学会通常総会並びに研究発表会(山形県)
5月 21日	全国治水砂防協会通常総会(東京都)	30日	日本地すべり学会総会及びシンポジウム(東京都)
30日	静岡県支部役員会・通常総会(静岡市)	6月 4～5日	土砂災害防止推進の集い全国大会及び 現地研修会(静岡市他)
6月 22日	砂防フェスティバルしずおか(静岡市)	8月19～22日	日本地すべり学会研究発表会及び現地見学会(富山県)
7月24～26日	市町村長等砂防事業視察(青森県)	10月	技術研修会並びに研究発表会 (全国地すべりがけ崩れ対策協議会)
8月(上旬)	砂防関係事業の促進要望実施(東京都)	11月	地すべりフォーラム 技術研究成果報告会 (砂防・地すべり技術センター)(東京都)
11月(初旬)	市町村等砂防担当者職員研修	3月(中旬)	砂防及び地すべり防止講習会(東京都)
(中旬)	東海4県砂防協会支部長会議(三重県)		
12月 2日	全国治水砂防促進大会及び 砂防関係事業の促進要望実施(東京都)		

わがまちの砂防

中伊豆町

中伊豆町 建設課長 井郷哲郎

中伊豆町はその名のとおりに伊豆半島のほぼ中央に位置し、東は伊東市、西は修善寺町、天城湯ヶ島町に接し、伊豆最高峰の万三郎岳（1406m）を始めとする天城連山がそびえ、賀茂郡との境をなしています。

天城連山に降った年間2500mm以上の雨は、天城国有林の森林資源や稚茸を育て、また伏流水となって各所に噴出し特産のわさびを生産しています。さらに、鮎釣りで名高い大見川となり町内を縦断し狩野川につらなっております。一見穏やかなこの河川は昭和33年9月の狩野川台風により、狩野川流域の町村に大惨事をもたらしました。



万城の滝キャンプ場



梅木第4砂防堰堤

この翌年に中伊豆町、修善寺町、天城湯ヶ島町の3町で建設省の狩野川直轄砂防事業が開始され、斜面崩壊地の復旧、砂防堰堤等の整備が進められてきました。

これらの砂防施設は、集中豪雨や台風が襲来しても未然に土石流等を防ぐことが出来、その役割や治山治水の重要性を地域住民とともに感謝しているところです。しかしながら、土石流危険渓流が非常に多い中において現在の砂防施設では、まだまだ充分ではありません。

今後も関係機関の皆様方のご支援を賜りながら、砂防行政の推進に努力していききたいと思います。

本川根町

本川根町 建設課長 坂本辻秋

本川根町は、静岡県の中中部、大井川の上流に位置し、本州唯一の原生自然環境保全地域に指定されています。南アルプス国立公園、奥大井県立自然公園など、四季折々の景色の美しさはまちの自慢のひとつです。また、日本唯一のアプト式鉄道や、日本でも数少ないSLの走る大井川鉄道があります。

平成13年度の長島ダム完成に伴い、ダム湖「接阻湖」が誕生し、寸又峡温泉、接阻峡温泉、白沢温泉などに加え、新たに魅力的な観光スポットが増えました。平成15年度にはこの接阻湖と八木の会場において静岡国体カヌー競技が開催されます。

面積の93%以上が森林で占められている本町では、古くから人々は少ない平地や川沿いに家を建て暮らしており、大雨のたびに不安



千頭急傾斜地とトロッキ列車



接阻湖とレインボーブリッジ

を抱えた生活を余儀なくされてきました。先人たちの努力により、砂防事業をはじめ、治山事業、河川改修が施され、近年では大きな被害を受けることは少なくなりましたが、急峻な山林を背負っている集落はいまだ多く、本町の玄関口とも言える大井川鉄道駅のある千頭駅前地区も急傾斜地崩壊危険区域に指定されています。現在、区域住民の安全な生活を確保するため、平成12年度から急傾斜地崩壊防止施設の整備を進めていただいているところであります。

すべての町民が安心して快適な生活が営めるよう、関係機関の皆様方のご指導・ご支援を賜りながら、災害防止に努めるとともに、自然と共存したまちづくりを目指していきたくて考えております。



大須賀町

大須賀町 都市建設課長 久野恒夫

大須賀町は、北に小笠山、南は遠州灘を臨み、温暖な気候に恵まれ、今なお当時の趣が所々に遺る人口約1万3千人の城下町です。

当時、雄姿を誇った横須賀城の跡地は現在、史跡公園となっています。

最近の町における砂防関係業務としては、平成14年度に1箇所について、急傾斜地崩壊危険区域の指定申請事務を進めて参りました。

当該地は人家・地区公民館・二級河川・幹線町道・寺院がある区域でありました。地区説明会の折には、過去に崩壊の



指定を受けた西大淵 No.2急傾斜地



国指定文化財 史跡横須賀城跡

経験もあるということで、東海地震や豪雨時における被害発生の懸念から、崩壊防止工事の早期施工を望む声が大きく聞かれました。

地権者等関係者の快い同意も得られ、既存の隣接既指定地の区域拡大という形で「西大淵No.2」という名称で、平成15年1月に指定を受けることができました。

今後も県等関係機関の皆様方のご指導・ご支援を賜りながら、保全工事の早期実現により地域住民の安全な生活を確保して参りたいと思っています。

三ヶ日町

三ヶ日町 都市整備課長 黒柳憲男

「湖面に輝く活力と希望あふれる町」をめざす三ヶ日町は、静岡県の西端に位置し、愛知県と接する町です。北は赤石山脈の支脈の尾根に囲まれ、南は、猪鼻湖・浜名湖が広がり、山・川・湖などが織りなす自然いっぱいの町です。

昭和30年3月に三ヶ日町と東浜名村が合併し新三ヶ日町が誕生し、現在に至っています。

温暖な気候と自然等の地理的条件に恵まれた町は日本一のみかん産業と、風光明媚な観光リゾート地としても注目されています。

昭和49年の七夕豪雨では、土石流による河川の氾濫等により



本坂北川砂防堰堤

住宅や道路・河川に多くの被害が発生し激甚災害となりました。

その後、平成7年には川名宮川が平成8年には本坂北川が砂防指定地に指定され、堰堤建設等より土砂災害の未然防止が図られるなど、現在までに11箇所が砂防指定に指定されています。

また、急傾斜地崩壊危険区域についても2箇所の指定を受け、対策工事が施工され住民の安全が図られています。

今後とも、国・県をはじめとする関係機関の皆様のご支援を賜りながら土砂災害防止に努めてまいりたいと考えております。



夏に開催される三ヶ日町花火大会